

株式会社栄和産業

特別支援学校からの職場実習受け入れを通じて
障害者を戦力化

テーマ 中小企業、知的障害者、精神障害者、特別支援学校、職場実習

Profile

所在地	神奈川県綾瀬市	雇用障害者数	7人
資本金	2,300万円	障害種別	知的障害者6人(うち職業的軽度判定1人、重度(パート)1人) 精神障害者(パート)1人
業種	製造業	職務内容	技能職、名刺作成、配膳、清掃、事務補助
従業員数	150人		

取組

- 課題** 初めての障害者雇用で、障害者が働くことについてイメージが十分持てず、また、採用方法もよく分からなかった。
- 対応** 特別支援学校の生徒を実習生として受け入れて採用するというルートがあることを知り、職場実習を行うことにした。
- 効果** 職場実習の受け入れを通じて、参加した障害者と社員の双方が一緒に働くイメージを持つことができた。また、実習に参加した障害者の中から同社への就職を希望する者も出てきたが、障害者も会社もお互いに相手のことをよく理解した上での採用となったため、円滑な職場定着につながった。

同社は、障害者を雇用するに当たり、そもそも障害者が働くことについて十分なイメージを持つことができず、採用方法もよく分からなかった。こうした中で、新規学卒者を採用する企業と高等学校の名刺交換会に参加し、特別支援学校の先生から職場実習を通じて特別支援学校の卒業生を採用できることを教えてもらった。

同社は、早速特別支援学校の生徒の職場実習を受け入れることとしたが、その際、特別支援学校の先生に同社の作業現場に入ってもらう、実習内容を確認するなど十分な情報交換を行うとともに、できる限り同社の作業に適性があると思われる生徒を職場実習に送り出してもらうようにした。

また、職場実習の対象となる生徒が決まった後は、会社としても実習生の学校での様子や本人の特性をよく確認し、実習中に必要な配慮事項を明確にするとともに、特別支援学校の先生とよく相談しながら、実習生の適性や障害特性を十分踏まえた実習スケジュールを作った。

さらに、同社では、1回目の実習期間中は、実習生に基本的な作業工程に従事してもらい、さらに実習終了後、当事者

が希望する場合に再度改めて実習の機会を提供するようになった。また、その際は、正社員としての就職を視野に入れながら、単一的な作業ではなく、できるだけ多くの工程を経験してもらおうようにした。その結果、初めは同社の作業がうまくできなかった実習生も徐々にできることが増えていき、作業についても自発的に教える者も出てくるなど、実習の経験が実習生の大きな成長につながるようになった。

同社では、このような実習により、参加した障害者と社員の双方が一緒に働くイメージを持つことができ、障害者に対する社内の理解も深まった。また、実習に参加した障害者の中から実際に同社への就職を希望する者も出てきたが、障害者も会社もお互いに相手のことをよく理解した上での採用となったため、円滑な職場定着につながった。

同社は、以上のような職場実習を通じて同社にふさわしい障害者を採用することができたが、その後も多くの実習生の受け入れを通じて障害者を採用し、現在では障害者を戦力として活用するに至っている。